



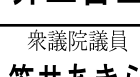
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士

市営バスの運行改善を

市議会の事務事業評価

市議会が閉会中の各常任委員会で2019年度の事務事業評価をし、11月24日の全員協議会で市長に提出しました。この内、市営バス運行改善についてお知らせします。

利用増える市営バス

前年比104%

高齢者や高校生など移動困難者の交通権を保障するために、小矢部市は市営バスを運行しています。75歳以上の高齢者は無料で利用できます。

◆メルバス運行状況 (5路線)		
年間利用人員	5万4504人	対前年比104%
路線別内訳	津沢線	2万5451人
	正得線	1万7人
	宮島線	3916人
	南谷線	4919人
	蟹谷線	1万211人
◆乗り合いタクシー (5路線)		
年間利用人員	3008人	対前年比95%
路線別内訳	岡線	322人
	水島線	18人
	内山白谷線	1803人
	五間橋線	118人
	小森谷線	747人

国から3700万円の交付金

運行経費をまかなう収入面は次の通りです。

◇市営バス運行経費	5005万2千円
メルバス運行委託料	3108万円
乗り合いタクシー運行委託料	730万円
燃料費、修繕費	746万7千円
バスリース代(2台)	241万3千円
その他経費	179万2千円
(収入面)	
市営バス使用料収入	302万3千円
国からの特別交付税交付金	約3700万円



小矢部市の持ち出しはその残りとなります。移動困難者の交通権を保障するためです。

運行改善へ バスが通らない地域の解消

10月に開かれた決算特別委員会で砂田市議は市営バスの運行改善について①東福町のデマンドタクシー乗車場所の増設、②正得地区のバス路線から離れた地域へ、日に一本でもバス路線を通せないかと求めました。

近隣市との共同運行も

民生文教常任委員会が指摘

吉田議員は民間バスの若林線、加越線について土日運行の停止、便数減という状況を取り上げ、近隣市との共同運行の検討を求めました。

また、民生文教常任委員会は事務事業評価で市営バスについて、次の指摘をしました。

「市内外をつなぐ民営バスについては園芸高校や砺波高校、福野高校へ通う高校生にとって唯一の公共交通といえるが、・・・石動高校への通学においてもその利便性は非常に重要である。」「若林線については、・・・砺波総合病院へ通院する利用者のことも考えると、現状を持って良しとする状況にはない・・・。」

「バス会社へ要望等を行うことも大事だが、将来を見据えた市営バスの運行事業の広域的な連携について、近隣市と協議すること。」

二丁どの総選挙で野党連合政権を

女性後援会がアピール

呉西地域で活動する日本共産党の女性後援会が11月29日、南砺市、小矢部市、高岡市で、「総選挙で市民と野党の共同で野党連合政権をつ

くろう」、
「日本共産
党の躍進で

希望の持てる政治に変えよう」と訴えるキャラバン宣伝に取り組みました。小矢部市ではピアゴ前で女性後援会たちがプラスターを掲げてアピールし、日本共産党の高瀬充子、高岡市議、穴倉陽子、氷見市議がマイクを持って街頭宣伝をしました。



住民の要望でカーブミラー設置

砂田市議が動く

このほど若林地区・下中町内の団地にカーブミラーが設置されました。住民の方から砂田市議に要望が出され、市に働きかけていたものです(写真)。



プラスターを掲げてアピールする日本共産党女性後援会のみなさん=ピアゴ前、11月29日

